

case 10 三重県鈴鹿市  
**日本人も外国人も、誰もが安心して活躍できる多文化共生のまちづくりに向けて**

三重県鈴鹿市は、人口約19万人のうち約5%にあたる10,758人（2026年2月末時点）の外国人住民が暮らす、多文化共生が身近なまちです。製造業を中心に受入れが進み、現在ではブラジル、ペルー、ベトナムなど60を超える国・地域の人々が生活しています。近年は定住化が進み、子育てや地域活動など、日常の交流も広がりつつあります。一方で、地域参加や日本語学習、行政手続など、言葉や文化の違いによる課題も見られるようになりました。こうした背景から、鈴鹿市では、日本人も外国人も地域の一員として活躍できるよう、多文化共生の取り組みを進めています。

① 地域の理解促進と関係づくり

地域の理解を深めることを第一歩とし、地域や学校などでの出前講座を実施しています。講座では、国籍別人口や外国人人口の推移などのデータを示しながら、外国人が地域を支える重要な担い手であることを伝え、共に暮らす意義を共有しています。

② 多言語・やさしい日本語による窓口対応および情報発信

庁舎内にはポルトガル語・スペイン語通訳職員を配置し、通訳タブレットや三者電話通訳サービスを併用することで、多国籍化に柔軟に対応しています。これにより、「伝わらない」「わからない」といった不安を軽減し、外国人が一人で悩まない環境づくりを進めています。

また、情報発信では、Facebook「Amigo Suzuka」で生活情報をポルトガル語・スペイン語・やさしい日本語で提供するほか、Instagram「やさしいにほんご ずずか【公式】」では、やさ

しい日本語の使い方や日本文化などを発信し、日本人にも「伝える力」を考えるきっかけとしています。

③ 庁内連携による全庁的な推進体制

2024年3月に、多文化共生の方向性と施策を示す「鈴鹿市多文化共生推進計画」を策定しました。教育、子育て、福祉、防災、雇用など多分野にわたる31の施策を整理し、うち6項目を重点施策として位置づけています。重点施策には、「事業所における日本語教育の推進」や「多様な防災情報伝達手段の活用」など、喫緊の課題に対応する取り組みを掲げています。

④ 鈴鹿国際交流協会の取り組み

鈴鹿市と連携して多文化共生の推進に取り組む（公財）鈴鹿国際交流協会では、毎年、「国際交流フェスタわいわい春まつり」を開催しています。さまざまな異文化体験ができる本イベントは、当日の交流に留まらず、国が違うパフォーマー同士の横のつながりができ、コラボレーションして出演するようになったり、地域で行われる他の行事への出演につながったりと、交流の「きっかけづくり」の役割も担っています。また、会場には、各国の屋台が並び、多彩な料理を通して外国の文化に興味を持つきっかけにもなっています。実行委員には、外国ルーツの方も参加し、力を合わせてイベントを作り上げています。自らの文化を発信し、共に祭りを作り上げることで、地域に暮らす人々の新しいつながりが生まれています。

このように鈴鹿市では、多文化共生を全庁的かつ関係機関と連携して推進しています。外国人施策を個別の課題としてではなく、あらゆる分野に関わる横断的な施策として位置づけ、地域住民の声を丁寧に聞きながら、地域の実情に合った取り組みを一つひとつ積み重ねています。これからも、誰もが安心して活躍できる多文化共生のまちづくりに向け、着実に取り組みを進めていきます。

地域内での共生社会実現に向け、日本人住民と外国人住民とで協働して実施している鈴鹿国際交流フェスタわいわい春まつり



屋台での民芸品や食べ物の販売



ステージでのパフォーマンス



たくさんの方が参加